

学びに挑み、表し、自分を見つめ、  
新しい知識・価値を創り出す  
児童の育成に向けて

「どうして新聞記者になられたのですか。」

これは昨年十月、二年生の生活科「まちたんけん」の学習で、インタビューの仕方について新聞社の方から「5W1H」を質問すること等大切さを学んだ後、授業の最後に担任の先生が質問をされた言葉です。

すると「小学生のころから作文を書くのが好きだったので。」と。

その瞬間、一人の子が「私も作文を書くのが好き！」。

昨年の七月、三年生の算数「長さ」の学習の際、新市町の測量関係のお仕事をされている方に、測量機器でグラウンドの二点間の距離を測ってもらいました。

そして、距離の答えは伝えず、三年生のこの学習で新しく習った「巻尺」を使い、測量機器で計った

長さの精度に「挑戦」する学習をしました。一度、計った後、答えを聞き、さらに、その違いを改善するための方法をグループごとに検討し、再測定。子どもたちは、一生懸命に思考し誤差を縮めるために学び合っていました。

二つの授業を紹介しましたが、このどちらも一昨年度から本中学校区が県教育委員会から指定を受けて取り組んでいる「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の実践です。

今年度は、その指定事業の三年目で最終年となり、今年度のキャリア教育のキーテーマを「挑戦〜プロフェッショナルに〜」として取組を進めています。

子どもたちが小学校で学ぶべき教科等の学習は、私たちの実生活、さらには様々な職業の基礎となっています。

その学習を職業とのつながりの中で「挑戦」的に学び、実際にその学習を通して、自分事として、自

ら、そしてともに学習の質を高め、ていくことができるよう取組を進めていきます。

話題を少し変えます。

ここまでお伝えした内容の中に「学ぶ」という言葉を用いています。が、その「学ぶ」内容でもある教科書は、国の学習指導要領をもとに、学習内容の分類性・系統性が担保されています。

しかし、同じ教室で受けた授業一時間であっても、二十人の子どもたちがいれば、その時間までの習得状況の違い等も考慮したとき、二十通りの理解の状況が存在することになります。

しかし、それぞれ違うものかと言えば、そうではなく「共有知」部分と「相違知」部分があります。

そう考えた時、私たち教職員は、そうであることを認識し、「共有知」を起点にしながら「相違知」等を理解し合い、深め合える学びを展開しなければなりません。

そして、子どもたちが、自分や自分の知識・経験等を見つめ、先

生や友達の言葉等と学習課題をつなげて想像的・創造的に思考・表現することで、新しい知識や価値を自分のものとして獲得してほしいと考えています。

今年度の本校の研究テーマは、「学びに挑み、表し、自分を見つめ、新しい知識・価値を創り出す児童の育成」です。

この研究テーマを基にした取組を通して、例えば子どもたち一人一人が、授業前・一年前の自分より成長できたと思える学びづくりを行っていきたいと思います。

今年度より本中学校区は「コミュニティ・スクール」となりました。保護者・地域の皆様とともに、子どもたちのすこやかな成長を願い、取組を進めていきたいと考えています。ご理解・ご支援のほど、よろしくお願いたします。

二〇二二(令和五年)

福山市立新市小学校長